

男おひとりさまの晩年

昨年のタレント飯島愛さんの孤独死のニュースは、一人暮らしの若い世代にとっても衝撃的だった。老若男女、有名無名を問わず、独り身の一つの終わり方を改めて突きつけられた。

実際、結婚は単なる選択肢の一つという考え方も増えているし、既婚者であっても死別・離別で再び独身になりうる。こうした世相を背景に、二〇〇七年、独身女性の老後をテーマにした『おひとりさまの老後』（上野千鶴子氏著）がベストセラーになり、独身女性の互助組織が各地に生まれるなど、おひとりさまという生き方に備えている女性は多い。

当然、その陰で『男おひとりさま』も増えており、首都圏では四十代前半の男性の非婚率は三割を超えるというデータもある。

ところが、指南本にせよ互助組織にせよ、『男おひとりさま』の老後にはあまり光が当てられていない。本当に男は大丈夫なのか。そこで今回はプレジデント流の男おひとりさま老後術を探ってみた。

そのとき、あなたは

お金は？ 住まいは？

病気のときは？ 最後は？

弱音を吐ける友達をつくる、

緊急連絡ノートを持ち歩く。

一人で生きることを選んだのなら

それなりの準備が必要だ。

上野千鶴子氏、遺品整理会社社長などが教える、

老後への備えとは。



*building
a retirement plan
as a
single male*

孤独死をする人は 冷蔵庫の中にも 期限切れ食品が多数

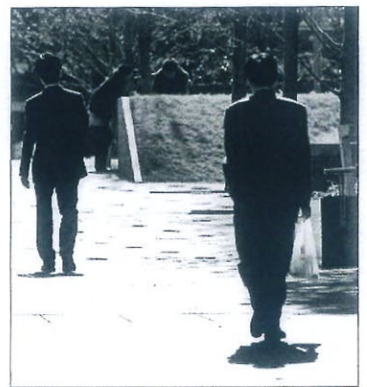
「死後一カ月で発見された中年男性の状態はひどいものです。肌が変色し、部屋に死臭が充満。虫が這い回るわ、ハエが飛ぶわ……」

そう語るのは、日本初の遺品整理専門会社キーパーズの吉田太一社長。悲しいかな、おひとりさま男の孤独死の現実だ。男のおひとりさまは、とかく健康に無関心になりやすい。しかも病院嫌いときている。その割にストレスに弱い。

「孤独死は誰にでもありうる話。現実から目をそらさず、いまから危機管理を真剣に考えるべき」と吉田氏。

孤独死する人は、他人の孤独死にも無関心だと吉田氏は言う。「冷蔵庫で食品を『孤独死』させていませんか。たとえば、『〇月×日に死ぬ』と消費期限が書いてあるのに、冷蔵庫という密室に放り込んだまま声もかけてやらな。ある日、ドアを開けたら変わり果てた姿になっている」。

身近な「声かけ」に無頓着な人は自分も声をかけられないような生き方をしている証拠だという。



万二の場合に備えて 「緊急連絡ノート」を つくっておこう

病气や怪我での入院に対して、どんな備えができるのか。FPの汀光一氏は「まず医療保険は会社員なら月額五〇〇〇円から七〇〇〇円、健康保険の傷病手当金が出ない自営業の方なら一万円から一万五〇〇〇円程度が目安。自営業の方は入院などで就業不能になったときに一定期間、所得補償がある所得補償保険なども考慮しておきたい。会社員でも傷病手当金が報酬の六割程度なので、不足分を所得補償保険で確保するのもいいでしょう。また保険だけに頼らず、貯金も必要です」。

つまり、保険と現金の両輪で考えるということだ。保険は条件に合わな

れば一円も出ない。貯金なら自分がほしいときに必ず下ろすことができる。ただし、再入院を繰り返しやすいガンは専用のガン保険のほうに適している。「病气への現金の備えは五〇歳くらいで三〇〇万円ほどあれば何とかかなります。これは老後の生活費貯金とは別ですよ」(汀氏)

最近では入院してもある程度経過すると病院を追い出されてしまう。本調子に戻らなければ自宅療養だが、自宅療養では医療保険が出ない。そのためにも現金の備えが必要なのだ。

おひとりさまの場合、入院するのも一苦勞。入院の保証人が必要なのだ。通常、保証人として身内が要求され、友人は認めない病院もある。手術でも全身麻酔でも保証人の署名が必要だ。

甥や姪がいるなら普段から交流を持ち、遺産を渡す約束をする代わりに保証人を頼んでおくといった努力が必要だ。また、有料で保証人を引き受ける保証会社は、住宅賃貸時や入院時の保証人引き受けサービスを提供している。万二の場合に備えて緊急連絡ノートもつくっておきたい。

「人間関係の『棚卸し』にもなると思うんですよ。年に一度くらいは見直し、昨年は甥を最優先にしてたけど、やっぱり姪のほうに頼りになるなどと言いつつながら名前を消したり加えたり」(FPの山田静江氏)

おひとりさまは、周囲とのつながりを断絶する生き方ではなく、むしろ身内がいけないぶん、つながりを増やす努力が不可欠なのだ。

緊急入院。 手術には保証人が 必要だと 言われたが

and then?